

8. 口腔科学教育部

(分析項目 I 教育活動の状況	……………	19)
(分析項目 II 教育成果の状況	……………	20)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 教育課程の体系性を可視化したカリキュラム・マップに、科目の分野・レベル・実施形式（講義・演習等）等を表す科目ナンバリングを併記することでカリキュラム全体を俯瞰できるようにし、それをウェブサイトにて学内外に公表している。さらに、教育課程の体系化・可視化ならびに改善のための取組として、カリキュラム・チェックリストを作成し学位授与方針が示す資質・能力を得るために学生の学修内容の確認を行うなどにより、体系的な学修体制構築を進めている。
- 医療系教育部が共同して、6つの医療系クラスター（「骨とCa」「ストレスと栄養」「感染・免疫」「肥満・糖尿病」「脳科学」「心・血管」）を構築し、蔵本地区全教育部横断的な指導体制の下、それぞれのクラスターの専門性を活かした教育指導を通じて、大学院生のニーズに応えた効果的な教育を行っている。毎年クラスターごとに学生の所属教育部を越えて議論を交わし刺激し合う場としてのミニトリートを実施し、参加者の高い評価を得ている。
- 中間発表会（専攻公開ゼミ）にルーブリック評価を導入し、学生と教員が共通の認識を持つことを可能にし、公正、厳格かつ客観的な評価を実施している。
- 大学院生の研究活動を評価するアカデミックレコードを制度化し、学生から提出された記録を集計・分析して課題を抽出し、教育の改善に活かしている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 学生の受賞数は第2期中期目標期間の年平均 2.2 件から第3期中期目標期間は年平均 7.5 件と増加している。特に平成 30 年度には先端歯学国際研究ネットワーク・先端歯学スクール 2018 最優秀賞等を受賞している。